

何事も都合の良い方に解釈

七月二十六日 日曜日 何事も都合のよい方に解釈

今日は、晴れで時々曇ってた。
九時前に起きた。

夕べ寝たのが遅かった為、すこしまだ眠い。

幹夫が、「九時やでえ」と起こしに来た。
下では、おばあちゃんとお母ちゃんが、いそがしく、
僕の用意をしてくれている様だ。

「少し、早いかなあ」と思ったが、
「まあ、早いのには越したことがない」と、
制服を身につけ、手紙と生徒手帳の間に、
お金をはさみ、下に降りた。

母が僕の手紙に気がついた。

「手紙、置いときなさい。
切手はって、後で、出しといてあげるさかい。」
と、言ってくれた。

「うん、ありがとう。」

母は手紙の宛名と住所を見て、
「ああ、それで八幡で蜂ね。」
と言って、にっこりした。

朝食を食べて、「さあ、出かけるぞ」となった。